

進路だより

~the news of course~

秋田大学教育文化学部
附属特別支援学校進路指導部

No. 7

平成31年3月8日発行



「何のために働くのか」という問い

副校長 跡部 耕一

最近、いろいろなところで「働き方改革」が話題になっています。政治案件で話題になることが多いので、学校においては教職員の勤務上の問題として捉えられることが多く、子どもたちの教育にはあまり関係がないような誤解をしてしまうこともあります。よく考えると、むしろ大変重要な関連があることに気付きます。

以前は、学校における進路指導の役割は、個人と職場の「マッチング」という色彩が強かったのですが、「進路指導」から「キャリア教育」への移行という文脈の中で、大きくその意義と意味を捉え直す必要が出てきました。特別支援教育においては、本人主体、自己主導というキーワードがクローズアップされるようになり、その内容と方向性についていろいろな議論や試行錯誤がされるようになりました。

このような背景のもと、本校では、学校独自の個別の教育支援計画として、「私の応援計画」に関する取組を平成27年度から始めました。自分は将来どんな大人になりたいか、そのためにどんな力を身に付ける必要があるのか、そのとき自分にとって必要となる支援は誰からのどんな助けなのか、というようなことについて、本人と教師が対話や協働作業を通じた試行錯誤を積み重ねています。新しい学習指導要領の柱となっている「主体的・対話的で深い学び」そのものです。そして、この取組の中核となっているのは、本人の願いー夢です。明日やってみたいこと、来週取り組みたいこと、来年手に入りたい諸々等、個人によってそのスパンや内容は異なりますが、いずれにしても「今」の次にどんな生活を描くのかということが鍵となっています。

一方、話題となっている「働き方改革」は労働条件や長時間労働の改善だけを目指しているものではありません。そういう個別的な課題を解決しながら、多様な働き方の選択ができることや一人一人がより明るい展望をもてるようにすることを目指した、働くことに関する総合的な改革であると言われています。この考え方に基づく、学校を卒業して職業に就くことは一つの手段であって、目的は自分の夢に向かった豊かな生活を実現することだということになります。現実的な生活のためには、何らかの仕事に就いて収入を得ることも当然必要となりますので、夢ばかり語ってはだめなのですが、この仕事に就いてよかった、仕事をしていることで少しずつではあっても自分は目標に向かって前進しているんだという確認ができないままでは、途中で折れたりしぼんだりしてしまいます。

また、平成23年に「ハタモク」（働く目的）という一般社団法人が設立され、そこに集う学生や社会人のメンバーは「何のために働くのか」ということについて話し合うことで、自分の人生を明るく作っていくためには、どう働くべきなのかを見つけていこうという取組をしています。

これからの新しい時代において、学校における進路指導でますます必要になることは、子どもたちの中に「何のために働くのか」という問いが生まれるようにする働きかけと、その問いに対する答えを見つけようとしている子どもへの、いろいろな角度からの支援であるということができるとは思いませんか。



同窓会(ひかい会)入会式



3月5日(火)、同窓会入会式が行われ、今年度、高等部卒業の8名が入会しました。同窓会会長のAさんからは、歓迎の手紙をいただきました。「僕は15年前に卒業して、病院で仕事をしています。みなさんも学校での思い出や友だちを大切にお仕事をしてください。」と温かい励ましの言葉をいただきました。

新入会員代表のBさんは、「いつか、自分の入れたコーヒーをお客様に提供し、喜んでほしいです。」と卒業後の生活への意欲や期待のこもった抱負を力強く語りました。同窓会員に仲間入りすることで、新生活の始まりを実感した高等部3年生でした。

進路決定！ 卒業生の進路先紹介

福祉サービス事業所	業務内容	一般事業所	業務内容
ほのぼの (就労継続支援B型)	箱折り、 封入作業等	コーヒー会社	接客、清掃 バックヤード
白樺 (就労継続支援B型)	クッキー作り シール貼り等	清掃会社	清掃
明成園 (就労継続支援B型)	クリーニング タオル畳み	秋田大学附属図書館	図書の整理 清掃等
ウェルビューいずみ (就労継続支援B型)	ウエス畳み 箱折り、清掃等		
ふきのとう (生活介護)	野菜袋詰め作業 箱折り等		

平成30年度の卒業生の進路先が上記のように決定しました。新しい場所での活躍を願っています。

卒業生の姿から

卒業して3年間、一般就職した皆さんと半年に1度面談をしています。皆さんから聞かれるのは、職場への感謝と自分の成長です。「できるようになりたい」と思っていたことが、半年たったときに振り返ると「今はできる」という自信になっていることに、本人が気付きます。そして、職場の方に「分かりやすく教えてほしい」「声を掛けてほしい」とお願いしていたことを思い出すと、自分は支えられてきたことで成長できたんだということを実感できるようです。

卒業した皆さんがこうして社会で立派に頑張っている姿を知ること、私達も「行ってらっしゃい」と自信をもって生徒たちを送り出すことができるように思います。こうした卒業生の姿、新しい情報を提供できるよう、今後とも努めて参ります。1年間ありがとうございました。

(進路指導担当 栗田)